



下関西高等学校 進路だより

令和6年6月号 進路指導部

学びの自立とは？

今年度も本校の卒業生が教育実習に来て頑張っていました。授業等でコミュニケーションを図る機会がありましたか？最近の実習生は、始まるまではほぼ全員が不安を口にしますが、いざ始まると ICT 機器も上手く活用するし、生徒の前でも臆せず堂々と話をされるので私も見習うべきことが多いです。

さて、今年も教育実習生の皆さんに「**学びの自立**」をテーマに原稿を依頼したところ、とても丁寧な内容の原稿を寄せてくれました。今回、それらを紹介するので、今後の学びの参考にしてください。

山口大学 人文学部 4年 中田京伽先生

こんにちは。教育実習でお世話になりました、中田京伽です。「学びの自立」について、生徒の皆さんにメッセージを送りますので、よければ読んでください。

皆さんは普段主体的に勉強しているでしょうか。私が高校生だったときは、大学受験で必要となるからという理由で、しかたなく、また受験が終われば、必要のない知識だと考えながら勉強していました。しかし、ある小説を読んで、勉強に対する考え方が一変しました。高校生の時に読んでいたら、勉強する姿勢が変わっただろうなと少し後悔するほどです。皆さんに紹介します。太宰治の『正義と微笑』の抜粋です。

「もう君たちとは逢えねえかも知れないけど、お互いに、これから、うんと勉強しよう。勉強というのは、いいものだ。代数や幾何学の勉強が、学校を卒業してしまえば、もう何の役にも立たないものだと思う人もいるようだが、大間違いだ。植物でも、動物でも、物理でも化学でも、時間のゆるす限り勉強して置かなければならん。日常の生活に直接役に立たないような勉強こそ、将来、君たちの人格を完成させるのだ。何も自分の知識を誇る必要はない。勉強して、それから、けろりと忘れてもいいんだ。覚えるということが大事なのではなくて、心を広く持つという事なんだ。つまり、愛するという事を知る事だ。学生時代に不勉強だった人は、社会に出てからも、かならずむごいエゴイストだ。学問なんて、覚えると同時に忘れてしまってもいいものなんだ。けれども全部忘れてしまっても、その勉強の訓練の底に一つかみの砂金が残っているものだ。これだ。これが貴いのだ。勉強しなければいかん。そうして、その学問を、生活に無理に役立てようとあせってはいかん。ゆったりと、真にカルチベートされた人間になれ！」

「カルチベート」は英語の「cultivate」で、耕す、磨く、洗練するという意味です。日々の勉強を大切に、無理に生活に役立てようと焦らず、真に洗練された人間になれるよう、お互いに頑張りましょう。

(次のページへつづく)

大阪大学人間科学部 4年 三宅大貴先生

学びの自立がなぜ必要なのか、高校生の内はあまり実感がわかないと思います。私が高校生の頃も似たようなことを言われていましたが、実際あまり気を払ったことはありませんでした。高校というのは、義務教育ではないにせよ、生徒主体の学びの場であり、放っておいても迫ってくる定期テストさえこなしてしまえば卒業できるという、受け身でも大丈夫なシステムになっているということが原因でしょう。では、将来を見据えて大学、そして就職という場面においてはどうでしょうか。大学という研究機関ではその主体はあくまで教授であり、学生のための施設ではないため、自分から行動して情報を得ることが求められます。企業も同じように社員が主体ではなく、あくまで利潤を追求して会社として利益を最大化することが求められます。どちらにも共通しているのは、できない人間を育ててやる義理がないということです。そんなシステムに受け身なままの人間が入ってしまうというのは、どちらにとってもメリットのないことです。高校生という大人でも子供でもない曖昧な時間を漫然と過ごすことが悪いとは言いませんが、何か目的意識をもって将来のために頑張るということを、今このタイミングで始めてみるもの良いかもしれません。

山口大学人文学部 4年 田村 千夏先生

皆さんは叶えたい夢がありますか。将来なりたい職業だけでなく、こんなことを挑戦してみたいな、今していることを十年後も続けていきたいな、など皆さんの中で抱いている夢がそれぞれあるのではないのでしょうか。私にとって「学びの自立」とは、皆さん一人ひとりが持っている「夢」の実現のために学ぶことだと思います。皆さんが今学んでいることすべてが、夢の実現に直接繋がるとは残念ながら言い切れません。しかし学びの中で身につけられる、集中力や忍耐力、頑張り続ける力は絶対に夢の実現に結び付きます。受験のための勉強と思うと堅苦しい感じがしますが、自分の夢の実現のための勉強と思うとなんだかやる気が出てきませんか。皆さんが様々な人と話をする中で身につけた知識や、自ら行動することで得た経験を自分の糧とし、夢の実現のための学びの中で、「学びの自立」が実感できたらいいなと思います。

奈良教育大学教育学部3年 工藤 琉楓先生

私は現在、大学で書道と国語の教員免許を取得するために学んでいます。その中で高校生の頃の経験が役に立っていると実感することが多々あります。例えば、漢文学の授業では漢文の書き下し文を書くことがあったり、日本文学の授業で高校の教科書で学んだ教材を知っていることが前提で授業が進められたりしています。高校生の頃に国語の教員免許を取りたいとは正直思っていなくて勉強している意味が分からなくなった時もありました。しかし、今になって役に立っているし、何より勉強した過程が重要なのではないかと思うようになりました。知識を身に付けるということはもちろんですが、自主的に頑張ったことが自信に繋がるのではないかと思います。大学生活は楽しいですが、嫌なこともあります。その時に、高校であれだけ頑張れたから大丈夫と自信を持って言えるように今のうちから努力を続けていただきたいです。応援しています。

以上です。実習の先生方、それぞれに個性あふれる素晴らしいメッセージを在校生に贈ってくれてありがとうございました。先生方の今後のご活躍を心より祈念しております。

(文責・松村)